

平成26年度 糸魚川市社会科部 活動報告

部長 猪又 光明

1 研究主題

「実感に支えられ、自ら学ぶ社会科教育」

2 研究の概要

今年度の糸魚川市社会科部の活動は、糸魚川市立糸魚川東小学校「新潟県N I E推進協議会実践委嘱校N I E研究発表会」と共催で実施した。研究主題を受け、具体的な社会的事象について調べたことを表現し、それをもとにして考える学習を積極的に展開する授業を目指した。

3 研究の実際

○ 授業公開・協議会、全体会指導

期 日：平成26年10月9日（木） 授業者：小林 克樹 教諭

会場等：糸魚川市立糸魚川東小学校

単元名：4年 社会科「ごみの処理と利用 ～N I Eで 気付く 広がる～」

概 要：

授業は、新聞記事を主な教材として学習のねらいにせまる「新聞活用型」の実践が公開された。「教科書での学習やごみ処理場の見学等の、自分たちの足と目だけではとらえることのできない社会事象を新聞活用で補い、視野を広げる。・自分たちが住んでいる場所以外の事象に触れることができ、思考の視点を移動させて考えることができる。」の2点が単元の目標として設定された。

はじめに新聞記事や統計資料をもとに「ごみが増えて、環境面や生活面で、現在どのような問題が起きているのか」を児童が考えた。次に「自分たちで取り組んでいるごみ減量作戦を発表する」ことを課題として、新聞記事をスクラップして事前に作った個々のポスターを、同じテーマのグループの中で発表した。その後、ワールドカフェスタイルで他のグループの発表を聞き、情報を共有した。学習のまとめでは、調べた記事をマップに示すことで、ごみ減量作戦が他の所でも行われていることを確認し、ごみの減量に対する意欲化を図った。協議会では、「自分が考えた、実践中のごみ減量作戦を、新聞記事などの資料を根拠として、発表することができたか」という評価の観点を中心にグループ討議が行われた。本時は、単元のまとめとなる授業であったが、前時までの学習におけるごみ処理場の調査・見学が有効であったことが確認された。児童の活発な発言やポスターの綿密な記述を通して、ごみの処理やリサイクルなどが、地域の人々の健康な生活や生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している児童が多く見られたという意見が多く出された。

○ 全体会指導

全体指導として、新潟工科大学教授・日本N I E学会理事 高田喜久司様から「新聞で変わる教室の風景」と題した講話をいただいた。新聞を活用した実践は、教師の取り組む姿勢に関わることが大きく、教師の強い思いが活動に対する児童の意欲を引き出すという指導があった。また、N I Eの今日的意義についての話があり、「確かな学力」に通底することを力説された。参加した社会科部員一人一人が自らの授業実践をふり返るよい機会となった。

4 成果と課題

児童が身の回りの社会事象に関心をもち意欲的に調査すること、また、得られた結果を思考・判断することが、公民的資質を伸ばすことにつながることを確認した。来年度も授業公開を予定している。公開を依頼する学校との連携を密にして、研究をより深めていきたい。